

■大津町立大津中学校■

1 平成 28 年度新体力テストの結果による取組の計画

PLAN

(1) 生徒の実態から

「新体力テスト」(平成28年4月)の結果では、体力合計点で全国平均をやや下回り、各運動種目においては、反復横とび、立ち幅とび、ハンドボール投げ以外は、県平均を上回っている。一方で、菊池郡市中学校体育研究会による「体力に関するアンケート」(平成28年7月)においては、「自分の体力に関心がある」「自分の体力に自信がある」や「体育の授業に主体的に取り組んでいる」「日常生活で体力を向上させる時間がある」といった項目で菊池郡市の平均を下回っている。

(2) 取組の方向性

運動への興味や関心を高め、生活習慣につなげる取組を学校総体で行うことで、体力の向上につなげていく必要がある。

そこで授業研究部会、運動・食習慣部会、調査・評価部会で、それぞれ体力向上に取り組む。

2 平成 28 年度の具体的実践

DO

(1) 授業研究部会の取組

ア 「大津中授業スタイル」の確立

授業スタイルをそろえれば、生徒にとって、授業を受ける際に見通しを持つことができ、教科が変わったり、教科担任の先生が替わったりした際に迷うことがない。教師にとっても、授業スタイルをそろえたことで、学習活動の合理化・効率化が図られ、言語活動や思考を深める時間の確保につながった。

イ 1時間の学習の流れを見通す手立て「学習活動の提示」

自ら学び、考え、仲間と協働しながら課題を解決していく能力の育成を重視し、毎時間の授業の学習過程、学習目標(めあて)の明確化に取り組んだ。学習の見通しをもつことができると、安心して学習を進めることができる。授業の導入時に1時間の学習の流れや学習目標を視覚化することで、生徒は学習の見通しを持つことができ、分かりやすく、安心して授業に臨むことができ、授業のユニバーサルデザイン化を図ることができた。

ウ 1時間の学習をまとめ、振り返る手立て「まとめの提示」

授業の終末時に行う振り返り(まとめ)の時間の充実に取り組んだ。学習目標(めあて)に対する考えやその時間で学んだことを生徒の言葉でまとめることで、学習内容の理解と基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。

(2) 運動習慣向上の取組(10トレ)

10トレとは、昼休みの10分間を使い、本校の生徒達を3つのグループに分けてゲーム的な要素を取り入れながら体力の向上を図っていく取組である。スタートは、エアロビック競技日本代表選手の大村詠一さん、総合型地域スポーツ「NPO法人クラブおおづ」のスタッフの方を外部講師としてお願いした。音楽に乗り、楽しい雰囲気の中での活動になった。



10 トレ指導中の大村氏

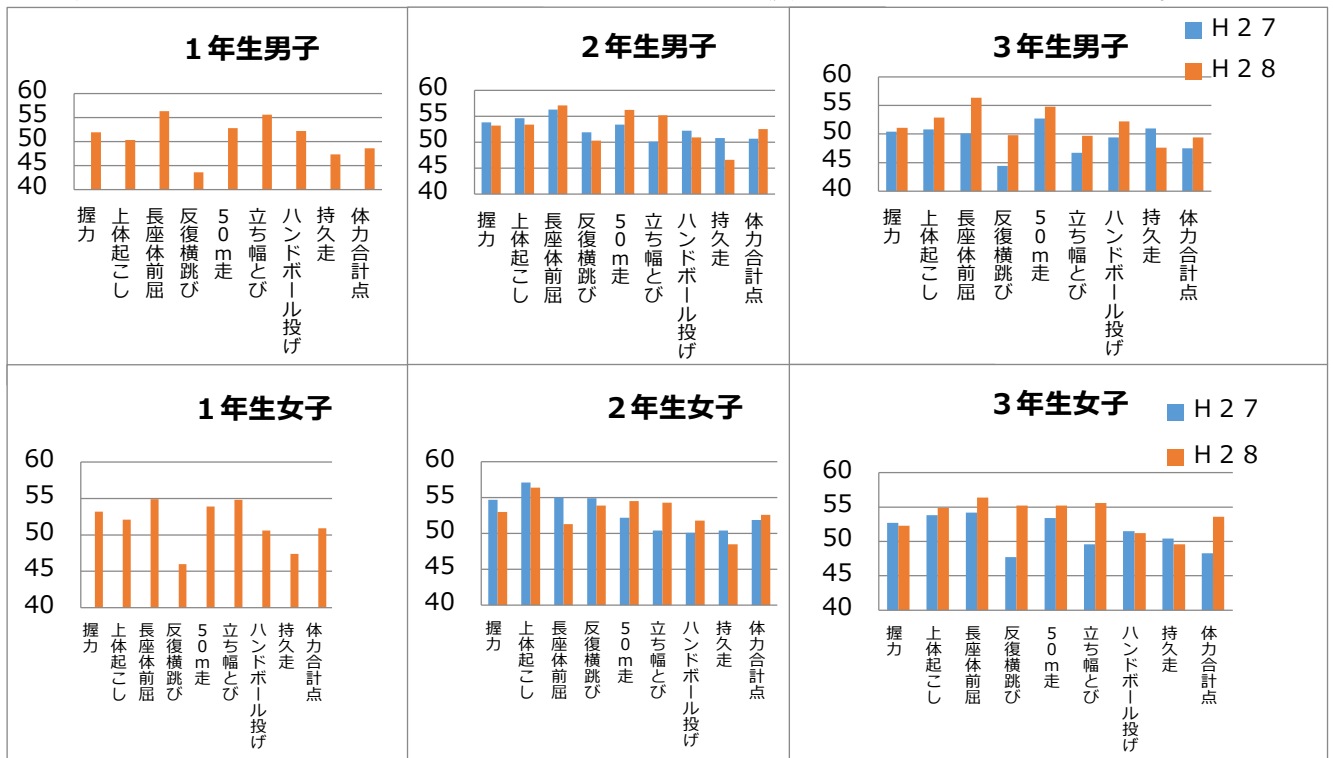


10 トレで楽しく活動する生徒の様子

3 平成 28 年度の取組の評価

CHECK

本年度の体力テストでは、2年生男女と3年生男女で体力合計点が昨年度を上回っていた。また、1年生も入学して約1か月後の実施であったが、反復横とび以外の運動は好結果である。ただ、持久走に関しては、全体的に課題が残ったが、熊本地震の影響も考えられる。課題もあるが、前年度からの総合的な体力の伸びは、本研究の成果であり、体育の授業のみならず学校総体として組織的に研究を積み重ねてきた成果といえる。



4 平成 29 年度の計画

ACTION

生徒の「自ら運動に親しみ、体力を高める資質や能力」をはぐくむためには、毎日の授業はもちろん、学習習慣、運動・食習慣、周囲との関わり、言語環境も重要となる。それらの実態を的確に把握・分析し、改善に向けた取組を行っていくことで、生徒の「自ら運動に親しみ、体力を高める資質や能力」がはぐくまれると考える。来年度は、さらに学校教育活動全体で共通実践を行う中で、運動・食習慣の向上の取組と授業力向上の取組を通して、生徒が主体的に運動に親しむ態度や体力向上を図り、「自ら運動に親しみ、体力を高める資質や能力」をはぐくみたい。